

文系国語

現代文

【共通基準】

1. 誤字・異字・脱字・衍字は1カ所につき1点減点。同じ漢字の誤りは1回のみ減点する。
2. 助詞誤りや主述関係の不備による「文のねじれ」がある場合は採点しない（全体不可）。
3. 字数制限
制限字数に対して著しく少ない文字数（8割未満）の答案や超過している答案、書きかけで文になっていない答案は採点しない（全体不可）。
文字・句読点のマス内同居によって制限を超えた場合も、字数超過とみなす（全体不可）。
4. 解答欄の最初のマスから書き始めている場合は1点減点。
5. 記述問題の解答末尾に句点がない場合は1点減点。また、要素の中心となる内容に不備がある場合は、その要素の得点を0点とする。
6. 記述問題においては文章構成も加味する。
 - ・「因果関係」「時系列」「順接／逆接」などに着目して解答例と見比べて、要素同士が明らかに不適切な接続になっている答案
 - ・内容は伝わるものの、文章構成に難がある答案
 - ・文末表現が不適切な答案などは4点減点。

問一 a～j 各2点×10=20点

問二 8点

答案内に、

「外見を軽視する（外見よりも他のものを重視する）価値観」

「外見を重視する価値観」

の2つが示されていないものは不可（=得点なし）。

- ・「外見を軽視する価値観」が、一般論や常識的な考え方として提示できている。
- ・「外見を軽視する価値観」と「外見を重視する価値観」が、逆接や対比のかたちで示されている。
- ・ 日常生活・実社会・実際の関わり合いの場面では「外見」が重視されていると表現できている。

※上記を満たしつつ書けているものを正答とする。

いずれかについて、説明に不備や不足があるものは4点減点。

問三 8点

答案全体から、

「視線の取り方」と「道具」の2つの要素によって維持される
という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①「視線の取り方」に関する説明（4点）

②「道具」に関する説明（4点）

※要素①につき説明に不備や不足があるものは2点減点。

要素②につき説明に不備や不足があるものは、

- ・「道具」の例示がない場合2点減点。
- ・「他者との距離を保つ」という内容に留まり、
「他者に関心がないことを示す」と言及できていないものは3点減点。

問四 12点

答案全体から、

他者の（私的）世界を侵犯してしまうから
という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①満員電車におけるスマホ（満員電車でスマホを使用していること）の説明（4点）

②「他者の世界を侵してしまう」ことへの言及と説明（6点）

③「秩序を乱してしまう」ことへの言及と説明（2点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①につき2点減点、要素②につき3点減点、
要素③につき1点減点。

問五 14点

答案全体から「儀礼の行使は、外見を整える行為と結び付いている」という内容が読み取れ、
「結び付いている」と言える理由や条件を説明しようとしているものが採点対象。
読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①「儀礼の行使」の説明（4点）

②「儀礼の行使」には、「外見を整える」行為が伴うことの説明（2点）

③「関連」の説明（8点）

※要素①につき説明に不備や不足があるものは2点減点。

要素③につき説明の不備や不足があるものは、

- ・「印象操作」に言及がなく、『儀礼の行使』のために外見を整えている」
という関連付けに留まっているものは6点減点。
- ・「印象操作」に言及があるものの、その内容を説明できていないものは4点減点。

問六 各4点×2＝8点（順不同）

二 古文

【共通基準】

1. 誤字・異字・脱字・衍字は1カ所につき1点減点。同じ漢字の誤りは1回のみ減点する。
2. 字数指定のない設問について、解答欄の枠をはみ出して記述している場合、
 - * 5文字以内のはみ出しは、許容として不問。通常通りに採点する。
 - * 6～10文字のはみ出しは、1点減点。
 - * 11文字以上はみ出している答案是、採点しない（＝得点なし）。なお、句読点、記号も字数に数える。
3. 「現代語訳問題」の解答末尾の句読点の有無は不問とする。
ただし、原文の末尾が読点なのに句点になっているもの、あるいは、原文の末尾が句点なのに読点にしてしまっているものは1点減点。
4. 「説明問題」については、書きかけで文になっていない答案是採点しない（全体不可）。
また、要素の中心となる内容に不備がある場合は、その要素の得点を0点とする。
末尾に句点がないものは1点減点。主体や客体が不明瞭なものは2点減点。
5. 「説明問題」においては、文章構成も加味する。
 - ・「因果関係」「時系列」「順接／逆接」などに着目して解答例と見比べて、要素同士が明らかに不適切な接続になっている答案
 - ・内容は伝わるものの、文章構成に難がある答案
 - ・文末表現が不適切な答案などは4点減点。
6. 古文・漢文の記述設問の解答のうち、「現代語の文法に従っていないと思われる部分」がある答案是、「現代語の文法に従っていないと思われる部分」について、一カ所につき2点減点とする。

問一 ア 6点

- ①「まよは」の説明＝ハ行四段活用の動詞「まよふ」の未然形（2点）
- ②「れ」の説明＝自発の助動詞「る」の連用形（2点）
- ③「し」の説明＝過去の助動詞「き」の連体形（2点）

※波線部を「まよは」「れ」「し」の3つに分解したことが示されていない場合は全体から2点減点。

誤字・異字・脱字・衍字がある場合には、それが含まれる要素の得点なし。

問一 イ 6点

- ①「なり」の説明＝ラ行四段活用の動詞「なる」の連用形（2点）
- ②「ぬ」の説明＝完了（強意）の助動詞「ぬ」の終止形（2点）
- ③「べき」の説明＝推量の助動詞「べし」の連体形（2点）

※波線部を「なり」「ぬ」「べき」の3つに分解したことが示されていない場合は全体から2点減点。

誤字・異字・脱字・衍字がある場合には、それが含まれる要素の得点なし。

問二 ① 6点

①原文にない語句（寿永・元暦の頃の騒動については）の補充（1点）

②「なかなか思ひも出でじとのみぞ」の訳出（3点）

③「今までもおぼゆる」の訳出（2点）

※要素②③については、動詞部分の訳出が適切でなければ0点。

それ以外の部分に不備があれば要素②につき2点減点、要素③につき1点減点。

問二 ② 6点

①原文にない語句（「資盛が」「私（右京大夫）のことを」）の補充（1点）

②『『なほざりにて聞こえぬ』など』の訳出（3点）

③「なおぼしそ」の訳出（2点）

※要素②については動詞部分の訳出が適切でなければ0点、それ以外の部分に不備があれば2点減点。

『』（二重カギカッコ）または「」（カギカッコ）がないものは1点減点。

要素③については、『『思う』の尊敬語」＋「禁止」の訳出を基本とする。

敬語表現の重複や現代日本語としてこなれない表現は1点減点。

問二 ③ 8点

①原文にない語句（私が）の補充（1点）

②「げにさることと聞きしも」の訳出（3点）

③「さること」（＝もっともなことだ）と思ったこと具体化（2点）

④「なにとかいはれむ」（反語）の訳出（2点）

※要素②については、動詞部分の訳出が適切でなければ0点、それ以外の部分に不備があれば2点減点。

要素③については、具体化が不十分なものは1点減点。

問三 A 10点

答案全体から、

あわれんでほしい（悲しんでほしい、情けをかけてほしい）と思っている
という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①「さらば」（＝それならば）の具体化（4点）

②「さすがに」（＝そうは言ってもやはり）の内容説明（2点）

③「露ばかりのあはれはかけてむや」の内容説明（4点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①③につき2点減点、要素②につき1点減点。

問三 B 7点

答案全体から、

誰にも話せないでいる
という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①「作者が話せない」内容についての説明（3点）

②「話せない」理由や状況についての説明（4点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①②について各2点減点。

問四 12点

答案全体から、

自分自身を嫌悪する気持ち／嫌だと思ふ気持ち

という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①作者（右京大夫）の状況と気持ちの説明

＝「さてある身ぞうとましき」の解釈を踏まえた説明（6点）

②作者（右京大夫）が見たもの（目の当たりにしたもの）の説明

＝「またためしたぐひも知らぬ憂きことを見て」の解釈を踏まえた説明（6点）

1 和歌の「またためしたぐひも知らぬ」を踏まえていること

2 「憂きこと」の具体化・例示

※説明に不備や不足があるものは、要素①につき3点減点、要素②-1と要素②-2につき各2点減点。

問五 (a)・(b) 各2点×2＝4点

三 漢文

【共通基準】

1. 誤字・異字・脱字・衍字は1カ所につき1点減点。同じ漢字の誤りは1回のみ減点する。
2. 字数指定のない設問について、解答欄の枠をはみ出して記述している場合、
 - * 5文字以内のはみ出しは、許容として不問。通常通りに採点する。
 - * 6～10文字のはみ出しは、1点減点。
 - * 11文字以上はみ出している答案は、採点しない（＝得点なし）。なお、句読点、記号も字数に数える。
3. 「現代語訳問題」「書き下し文問題」の解答末尾の句読点の有無は不問とする。
ただし、原文の末尾が読点なのに句点にしているもの、あるいは、
原文の末尾が句点なのに読点にしているものは1点減点。
4. 「説明問題」については、書きかけで文になっていない答案は採点しない（全体不可）。
また、要素の中心となる内容に不備がある場合は、その要素の得点を0点とする。
末尾に句点がないものは1点減点。主体や客体が不明瞭なものは2点減点。
5. 「説明問題」においては、文章構成も加味する。
 - ・「因果関係」「時系列」「順接／逆接」などに着目して解答例と見比べて、
要素同士が明らかに不適切な接続になっている答案
 - ・内容は伝わるものの、文章構成に難がある答案
 - ・文末表現が不適切な答案

・「金（きん）」か「金（かね）」かが不明瞭な答案
などは4点減点。

6. 古文・漢文の記述設問の解答のうち、「現代語の文法に従っていないと思われる部分」がある答案は、「現代語の文法に従っていないと思われる部分」について、
一か所につき2点減点。

問一 a～c 各2点×3=6点

aとbについて、送り仮名が欠落しているものは1点減点。

問二 9点

①「数問其家金余尚有幾斤」についての説明（5点）

②「趣売以共具」についての説明（4点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①につき3点減点、要素②につき2点減点。

問三 7点

(1)「宜」＝「宜しく～べし」（2点）

(2)「従丈人所」＝「丈人の所より」（1点）

(3)「勸・説君」＝「君に勸説し（て）」（1点）…「て」の有無は不問

(4)「置田宅」＝「田宅を置く」（1点）

(5) 使役の送り仮名「しむ」を「置」に付けて「置かしむ」としている（2点）

※・「宜」（宜しく～べし）の「べし」が「置」以外に接続しているものは2点減点。

・原文の返り点に従っていないものは不可（＝得点なし）。

・「宜」「丈人」「所」「君」「勸説」「田宅」「置」を1つでもひらがなにしているものは不可（＝得点なし）。

・「従（より）」を漢字のままにしているものは不可（＝得点なし）。

問四 10点

答案全体から、

家や一族（の将来）のために手を打つ

という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①疏広の散財の説明（4点）

②子孫の計画の内容説明（6点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①につき2点減点、要素②につき3点減点。

問五 7点

①「吾」の訳出（1点）

②「豈～哉」の訳出（3点）

③「老悖」の訳出（1点）

④「不念子孫」の訳出（2点）

問六 8点

①「吾」の訳出（1点）

②「既無」の訳出（1点）

③「以教化子孫」の訳出（2点）

④「不欲」の訳出（1点）

⑤「其」の訳出・具体化（1点）

⑥「益（其）過而生怨」の訳出（2点）

問七 18点

答案全体から、

自身の（散財）行為は、子や孫のことを考えたうえでのものである
という内容が読み取れないものは不可（＝得点なし）。

①疏広が散財する理由の説明（6点）

②散財している黄金についての説明（6点）

③疏広による自身の散財行為への評価や意思（6点）

※説明に不備や不足があるものは、要素①②③について各3点減点。